

ななかまど

NANAKAMADO

Hokkaido Information University Magazine

Volume 84

Published on September 20, 2025

Endeavor

特集

未来を拓く挑戦





TOP

INTERVIEW

Building on the vision and expertise
honed over decades in space development,
I am committed to guiding
Hokkaido Information University
with a clear 10-year outlook
to chart its path of endeavor to new heights.

宇宙と大学、 その先にある未来へ

Watanabe Shigeto

2025年4月に就任した わたなべ しげと 渡部 重十 学長は、日本の宇宙開発を最前線で牽引してきた研究者の一人。火星探査機「のぞみ」や金星探査機「あかつき」の機器開発に深く携わるなど、最前線で数々のプロジェクトに関わってきました。

その渡部学長に、宇宙への思いと、北海道情報大学の未来について伺いました。



北海道情報大学 学長

渡部 重十 わたなべ しげと

< 略歴 >

- 1984年 東北大学理学研究科地球物理学専攻博士課程後期修了（理学博士）
- 1989年 カナダ国立科学院ヘルツベルグ宇宙物理学研究所 研究員
- 1995年 東北大学大学院理学研究科 助教授
- 1998年 北海道大学大学院理学研究科 教授
- 2001年 日本学術会議 専門委員会委員
- 2010年 宇宙航空研究開発機構（JAXA）/ 宇宙科学研究所（ISAS）ロケット専門委員会委員
- 2010年 国立極地研究所 宙空圏専門部会委員・部会長
- 2012年 国立極地研究所 南極観測審議委員会委員
- 2014年 北海道大学大学院理学研究院 客員教授
- 2014年 北海道情報大学 教授 / 宇宙情報センター センター長
- 2017年 北海道大学 名誉教授
- 2017年 地球電磁気・地球惑星圏学会 会長
- 2021年 北海道情報大学 副学長・理事
- 2025年 北海道情報大学 学長就任

月面着陸に魅せられて —— 宇宙との出会い

大学に進学し、専門分野を深く学びたい、研究に没頭したいという情熱は、多くの人が抱く感情ではないでしょうか。私の場合、その情熱が明確な形をとったのは、人類が初めて月面に降り立ったアポロ11号の月着陸船「イーグル」の月面着陸を目の当たりにした時でした。日本がまだ人工衛星を打ち上げることができなかった時代に、米国NASAが人類を月に送り込んだという事実は、私の心に計り知れない衝撃と感動を与えました。深夜、白黒のテレビ画面を食い入るように見つめていたあの時の興奮は、今でもまるで昨日のこ

うに鮮明に思い出されます。

当時の私は、テレビや新聞の報道を隅々まで貪るように読み漁りました。そこで知ったのは、宇宙開発という分野が、想像を絶するほど広大な世界であるということ、そして、私たち日本人にも、その壮大なプロジェクトに関わる機会があるかもしれないということでした。この発見は、私の人生の方向性を決定づけるものとなりました。「大学で太陽系内の宇宙を学び、研究してみよう」それが、私の決意となりました。

国際共同による宇宙開発プロジェクト —— 10年計画への挑戦

幸運にも、大学院に進学してからは、人工衛星の開発プロジェクトに直接関わる機会に恵まれました。一度この世界に足を踏み入れると、その奥深さと面白さにすっかり魅了され、以来、今日に至るまで私の情熱が冷めることはありません。

人工衛星や惑星探査機の開発は、構想段階から運用開始までには10年、

あるいはそれ以上の歳月を要する息の長いプロジェクトです。その計画の初期段階から参加できたことは、私にとってまさに幸運でした。さらに、これらのプロジェクトの多くは国際共同研究として推進されます。他国の研究者や技術者との密な連携、そして海外から調達する部品の性能試験のために世界各地を巡る日々は、まさに新たな発見と知的な高揚に満ちた連続でした。



壊れないものをつくる —— 私の信念

私が宇宙開発に携わる上で常に心掛けてきた信念は、「絶対に壊れないもの、決して故障しないものを製作する」というものです。万が一、不測の事態が発生し、機器が故障したとしても、貴重な観測データを確実に取得できるよう、常にプランAだけでなく、プランB以降の代替案を綿密に考案し、装置設計に組み込むことを徹底しました。この考えが功を奏し、私が関わった人工衛星や惑星探査機に搭載された観測機器は、いずれも人工衛星や探査機自体の寿命が尽きるまで、期待通りに動作し続けてくれました。その実績のおかげで、

私は次なる宇宙開発プロジェクトに参加する機会を得ることができました。

人工衛星や惑星探査機の設計段階から開発、そして運用までの一連のサイクルに深く関わることは、その「最期の瞬間」にも立ち会うことになります。運用停止命令が下り、宇宙の彼方でその役割を終える瞬間や、大気圏への突入という壮絶な終焉を見届けることは、まるで大切な家族、あるいは自分の分身を見送るような、胸に迫る経験でした。

宇宙に送り出した“私の分身”たち

私自身が月面や火星の地を踏みしめるような経験は、おそらく叶わないでしょう。しかし、これまでの人工衛星や惑星探査機は、まさに私の感覚器官の一つとして、私自身の代わりに広大な宇宙のフロンティアを探索してくれまし

た。私の指令に素直に従い、様々な観測ミッションを遂行してくれる彼らは、まさに私の分身です。私がこの地球から姿を消したとしても、彼らは宇宙を飛び続けてくれることでしょう。

「オンリーワン」を設計する —— 世界最先端の研究であるために

金星探査機「あかつき」のプロポーザルを当時の文部科学大臣や国会議員の方々にご覧いただいた際、「この探査機で、日本の科学は世界で一番になれますか」という質問をいただきました。私たちの返答は、迷うことなく「オンリーワンです」というものでした。設計から開発、そして運用に至るまで10年以上の歳月を要するこのプロジェクトにおいて、私たちは常に10年以上先の未来を見据え、科学研究の最前線に立ち続けなければならないという強い使命感

を持っていました。10年以上先の科学がどうなっているか、その未来像を巡って、私たちは非常に多くの時間を費やし、議論を重ねました。この時の議論が間違っていなかったことは、計画段階から20年以上が経過した現在においても、この分野で私たちが世界の最先端を走り続けているという事実が物語っています。

大学運営にも通じる宇宙開発の視点

今年度から、私は本学の学長という新たな職務に就くことになりました。学長の仕事は、現在の大学が円滑に機能するように運営を指揮することと同時に、常に10年先を見据えた明確なビジョンを提示し、大学を新たな高みへ導くという、極めて重要な役割を担っています。最近では、このような大学運営という仕事が、宇宙開発のプロジェクト運営と、その根底にある哲学において、驚くほど多くの共通点を持っていることに気づかされました。

もちろん、科学研究とは異なる側面も多々あります。大学は、学生と教職員が相互に作用し合い、互いに成長し、10年後の社会において、変化に対応し貢献できる有能な人材を育成する場です。これは、私にとってはまだ未知の領域であり、日々学びの連続です。学生や教職員が何を考え、どのような思いを抱いているのか、教育や研究の現場で何が起きているのか、正確な情報がなければ、未来に向けた確固たるビジョンを描くことすらできません。

幸いにも、本学の教職員全員が、この大学を維持し、さらに発展させたいという強い意識を共有していると強く感じています。このような共通の意識を持つ仲間たちと共に、学生、教職員、そして社会全体にとって魅力ある大学を創り上げ、社会からも常に期待される存在へと成長させていきたいと願っています。そのためのポテンシャルは、北海道情報大学に十分に秘められていると、私は確信しています。



高校生へのメッセージ —— 問いから始まる未来

私が宇宙の研究に進んだきっかけは、「どうしてだろう」と思った小さな不思議と「自分でやってみよう」でした。大学は、自分の思いを挑戦できる場所です。

北海道情報大学では、「自ら問いを立て、考え、行動する力」を育てることを大切にしています。それを実現する一つの道具として情報やAIを活用します。大切なのは、それをどう使いこなし、自分なりの解決を導き出せるかです。

本学には、ビジネス、コンピュータシステム、デザイン、医療、宇宙など、さまざまな専門分野の教員が集まっています。分野を超えて学び、自分の「好き」を深められる環境があります。

自分の中にある「なぜ?」という気持ちを大切にしてください。その好奇心こそが、未来を切り拓き、豊かな生活に繋がる力になります。

SIDE NOTES

金星探査の舞台裏をもっと知る!

学長が関わった金星探査についてもっと知りたい方は、北海道情報大学のオウンドメディア「J Scope」の記事をチェック! 金星の謎について研究する教員が他にもいます。

「J Scope」ではこの他にも、最先端の研究や学生・卒業生の挑戦など、情報大学の「今」が詰まった記事を紹介しています。ぜひご覧ください。

地球の未来がわかる?
超温暖化『金星』の謎に迫る!
光学リモートセンシング



学長室に眠る“宇宙の記憶” 裏話コーナー

実は、金星探査機「あかつき」のカメラに搭載された光センサーの兄弟機が、学長室に保管されているのをご存じですか? 3個の光センサーを開発し、そのうち1個が金星探査機「あかつき」に搭載されました。他の2個は、渡部学長の部屋に現在も保管されています。1個の光センサーで、渡部学長の車を10台買える価格だそうです。

さらに驚くべきことに!?! /

金星探査機「あかつき」が金星で初めて撮影した1枚目の“未加工”の写真データ(公表されていません)は、学長のスマートフォンに保存されているとのこと。ちなみに、その1枚目の写真は学長のスマートフォンの待ち受け画像になっています。気になる方は、ぜひ学長室を訪ねてください。金星探査機「あかつき」以外にも、ここでしか聞けない宇宙開発の裏話がたくさんあるかもしれませんよ。

渡部学長所有の光センサー





成長の場は大学の外にも

— 新雪プログラムに挑んだ学生たち —

大学の外には、教室では得られない学びや出会いが広がっています。北海道発の若きITクリエイターを育成する「新雪プログラム」に挑んだ辻野さんは、野球をテーマにした独自のWebアプリケーションを提案。そこで彼が得た経験や気づきとは、どのようなものだったのでしょうか。

新雪プログラムとは

北海道ITクリエイター発掘・育成事業(新雪プログラム)は、一般社団法人新雪が実施する事業で、その目的は「独自性・主体性があり、将来北海道や日本を代表するクリエイターとなり、当該領域において先駆的な取り組みとして評価される可能性を秘めたプロジェクトを実現しようとしている若い逸材(北海道に在住する25歳未満が対象)」を発掘・育成することです。

同事業は経済産業省の支援を受け2023年度から活動をスタートし、本学からは学部生、大学院生を合わせこれまでに5名が採択されています。採択されたプロジェクトには最大150万円の支援金があたるほか、6か月の開発・制作期間の間、北海道のIT分野第一線で活躍する大学教授、IT企業代表取締役らがプロジェクトマネージャーとして支援を行います。

本学からの採択実績

※学年は採択時

>2023年度採択(2プロジェクト/採択全11プロジェクト中)

待機電力不要なネットワーク更新型 電子ペーパーサイネージ

あきば たかふみ
秋葉 貴文さん 情報メディア学科4年

LTool 思い立ったときにLTができる プレゼンテーションツールの開発

つしなが たいすけ
辻永 泰輔さん 情報メディア学科4年

※LT: Lightning Talk (5~10分の短いプレゼンテーションの意)の略

>2024年度採択(3プロジェクト/採択全10プロジェクト中)

P3VS: 気軽にできる野球における配球可視化アプリケーション

つしの りょうすけ
辻野 涼介さん 大学院 経営情報学専攻1年

※P3VS: Pitcher Pitching Pattern Visualization Systemの略

MR流体を用いた触覚ディスプレイと制御ソフトウェアの開発

かみむら そら
上村 宙さん 情報メディア学科2年

「マチョプリ!」筋トレの努力を可視化する3D身体撮影システム

しながわ あさひ
品川 朝陽さん システム情報学科2年 ※他大学ほか3名とのチーム採択

にできることを。

学生活動

北海道情報大学の学生たちは、自分たちの未来を切り拓くため、学内のみならず、積極的に外の世界へ飛び出し、活躍の場を広げています。



なぜこのプログラムに挑戦したのか、そしてそこから何を学んだのか。採択者の辻野さんに発想の源や、成長について伺いました。

——新雪プログラムに応募したきっかけを教えてください。

辻野 私が新雪プログラムに応募したきっかけは、チャレンジ精神もそうですが、前年度に同期が採択されていたこともあり、負けてられないと思ったのも大きいですね。

——どんな内容で提案したのですか？

辻野 提案内容は野球関連のWebアプリケーションで、視聴者自身がリアルタイムに投手の配球分析をできるようにすることで、新しい野球観戦の楽しみ方を提唱するというものでした。

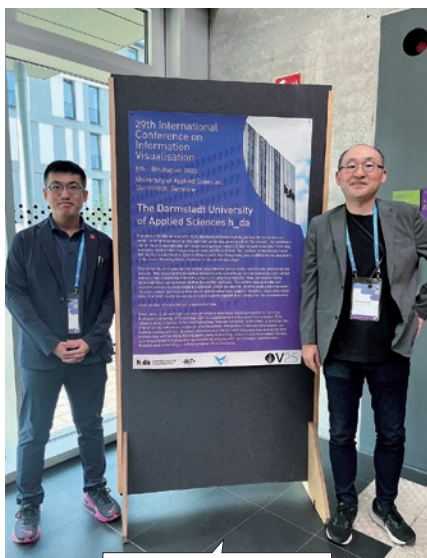
——提案内容はどのような経緯で発案したのですか？

辻野 指導教員の伊藤 正彦教授は情報可視化を専門にされている先生で、ゼミの先輩たちは特にスポーツに関する内容を多く取り扱っていました。そこで私も、昔から好きだった野球をテーマに取り組んでみようと思ったのがきっかけでした。今回の提案は、もともと学部3年生時代に「スポーツデータサイエンスコンペティション」という学外コンペに参加するために取り組んだ類似の研究を基にしている、それに改善を加えた内容なんです。

——新雪プログラム(以下:新雪)の採択によってどのような成長を感じましたか？

辻野 「新雪」では学外の方がプロジェクトマネージャーをしてくださったこともあり、これまでと違う視点での指摘をたくさんいただきました。その中で、

それまで自分の中では当たり前と思っていたことが通用しないという経験をして、人生で初めての挫折を味わいました。そのおかげで、自分が取り組んでいることから時おり距離をとって、俯瞰の視点を持つことの大事さを学びました。



伊藤教授とドイツの国際学会で

——辻野さんにとって「新雪」とはどのような存在ですか？

辻野 “研究室では学べないことを教えてくれたところ”ですね。「新雪」をとおして自分自身大きく成長できた実感がありますし、そのおかげで、今年8月にドイツで開催される国際学会(iv2025)に論文が採択され、現地で登壇発表の機会を得ることができました。

——最後に、情報大の後輩たちにメッセージをお願いします。

辻野 情報大には、意欲があり、何かを学びたいと考えている学生が多くいると感じています。そうした学生には、ぜひ外の世界に飛び出してほしいです。外に飛び出すと、新しい成長があり、意欲にあふれる多くの仲間やコミュニティとつながることができます。周りに意欲が高い人がたくさんいるとモチベーションも高まりますし、

そこには新たなチャンスもたくさん転がっています。情報大は「新雪」に力を入れていますから、一つのきっかけにしてほしいです。

最後に、指導教員の伊藤教授に感謝の言葉を伝えたいです。伊藤教授がいなければ、大学院への進学も、海外での論文発表も、エンジニアへの就職もありえませんでした。この場をお借りして、感謝申し上げます。

新雪プログラムに採択された4名(もう一人は既に卒業)

秋葉 貴文さん

夢中になれることを大切に、挑戦を楽しもう！

辻野 涼介さん

新雪は本気で挑む人を全力で応援してくれる場所。



秋葉さん

辻野さん

上村さん

品川さん

品川 朝陽さん

筋肉も挑戦も裏切らない！

上村 宙さん

今は1人でも、とにかく続けていると仲間が見つかります。

アンブレ

HIU ENTREPRENEURSHIP CENTER

アントレプレナーシップセンタープレゼンツ

学生チャレンジプログラム審査会!

5月30日にアントレプレナーシップセンターの活動の一環である「学生チャレンジプログラム」の審査会が開催されました。審査会は全部で7つのプロジェクトが参加し、「地域の課題解決」を活動テーマにした多彩なアイデアを発表しました。厳正なる審査の結果、5チームのプロジェクトが採択されました。



2025年度採択チーム

電子サバゲー制作プロジェクト

代表者 かみむら そら 上村 宙さん 情報メディア学科3年

交流人口を増やすため、エアガンの代わりに電子的な仕組みを使った安全に遊べるサバイバルゲームの開発。

HIU e-Sports Fesプロジェクト

代表者 あおき たける 青木 丈さん 先端経営学科2年

入学を検討する高校生らへのアピールの場として、東京が拠点のeスポーツのプロチームと連携し、同大の大学祭などで大会を開催。

江別子育て支援プロジェクト

代表者 きむら みつき 木村 美月さん システム情報学科2年

子育て世代の支援を目的として、小児科の開院時間やカフェが近くにある公園を記した地図など市内の子育て情報を一元化したアプリの開発。

学生チャレンジプログラムとは

学生たちの「こういうことがしたい!」という思いを実現するために、学生が考えた企画に活動資金の支援やメンターが知識の支援を行うプロジェクト活動です。

アントレプレナーシップとは

自ら社会課題を見つけ、制限を超えて行動し新たな価値を生む精神を指します。本学では、その精神を備えた人材を育成するため、ビジネス・デザイン・テクノロジーを融合した「アントレプレナーシップ教育(アンブレ教育)」を実践しています。

僕と君との重い恋プロジェクト

代表者 かぶらぎ りんと 楠木 琳斗さん 情報メディア学科2年

小樽に興味を持ってもらうため、小樽市を舞台とした恋愛ライトノベルアドベンチャーゲームと関連グッズを制作。

江別手持ち花火プロジェクト

代表者 ばば ともや 馬場 智也さん 先端経営学科1年

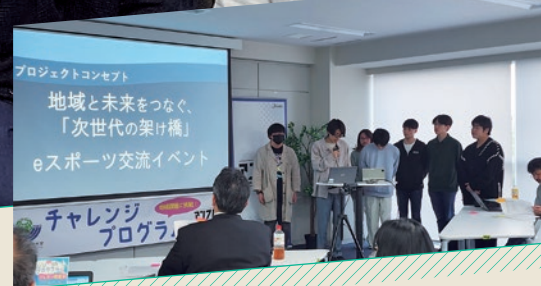
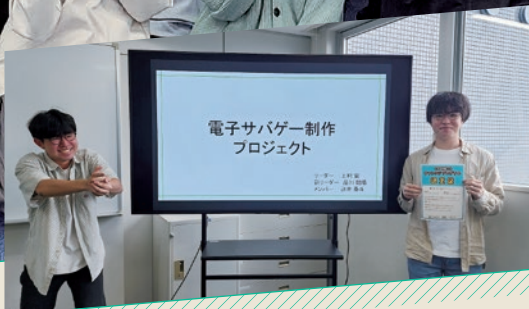
江別市内の小学生を対象にした手持ち花火大会の企画・運営。



チャレンジ プログラム

地域課題に挑戦!

アソブレ
HOKKAIDO CHALLENGE CENTER



この度、チャレプロに採択していただいたHIU e-Sports Fesプロジェクトの代表を務めています。

もともと学内外の協力を得てアソブレで活動していたプロジェクトでしたが、活動資金の調達や広報を目的にチャレプロへ応募しました。

現在は学内メンバー14名と外部団体の皆様に協力いただき、10月の蒼天祭でのイベント開催を目指して準備中です。

企画書作りには苦労しましたが、活動そのものが楽しく、常にやりがいを感じています。将来的には体育祭や蒼天祭に次ぐ恒例行事として、江別市の若者が集うイベントに成長させたいです。

リアルな電子サバゲーというアイデアは以前からあったのですが、機材購入の資金や、最先端の専門知識など、学生だけでは乗り越えられない障壁があり、プロジェクトを始動できずにいました。

そんな時、学生チャレンジプログラムの存在を知りました。プロジェクトの障壁を打ち破るための「資金援助」、「先生方の専門的な支援」、イベントを地域に展開するための「大学と江別市の繋がり」は、まさに私たちが求めていたものでした。

私たちのプロジェクトは実現までの障壁がいくつもあります。だからこそ、チャレプロの力強いサポートを追い風に開発を進め、大学や江別市と共に、地域を熱くする新しいエンターテインメントを創造していきます。

学生からのコメント



あおき たける
青木 文さん
先端経営学科2年



かみむら そら
上村 宙さん
情報メディア学科3年



「チャレンジプログラム」も、今年で3回目を迎えました。学生が「やりたいこと」を地域の中でカタチにするために、人的・資金的なサポートを行う制度です。

今年は5チーム、総勢約30名の学生が挑戦しています。特に今年は同窓会の皆さまにご協力いただき、プログラムがさらにパワーアップすることができました。心より感謝申し上げます。

チャレンジの本当の価値は、成功の有無ではなく、一步を踏み出す勇気と経験そのものにあります。学生のみさんには、日々の学びを地域で実践しながら、自分らしい未来を切り拓いてほしいと思います。



アントレプレナーシップセンター長
ちかざわ じゅん
近澤 潤 講師

アツブレ

HIU ENTREPRENEURSHIP CENTER



同窓会

今年で3回目の開催となる学生チャレンジプログラムは、学生の「挑戦したい!」という思いをカタチにするため、アントレプレナーシップセンターで活動支援金を提供していましたが、今年度からは同窓会から活動支援金をご提供いただけることとなりました!

さらに、同窓会代表の方々にはプロジェクトの採択を決める審査会にも参加していただき、実際に学生の熱い想いがこもったプレゼンを直接聞いていただきました。審査会では、同窓会の方々からの講評をいただき、学生たちにとっても非常に有意義な時間となりました。

このたび、同窓会(蒼天会)は、後輩たちの「未来への挑戦」を応援するため、「学生チャレンジプログラム」に賛同し、支援することといたしました。

審査会に蒼天会役員が同席し、各チームから出された企画からは、熱意溢れる高い意欲と情熱が感じられ、とても頼もしく感じたところです。

本プログラムを通じて、目まぐるしく変化する社会を生き抜く力が養われることを期待しています。「完璧を待たずに行動する勇気」や「失敗を成長の糧とする姿勢」、さらに社会連携・地域貢献の経験が、将来のキャリア形成に大きく役立つ学びとなるでしょう。

この挑戦が、未来を切り拓く重要な一歩となることを、蒼天会一同、心から期待しています。



同窓会 役員(1期生)
かわだ なおき
川田 尚紀 さん

北海道情報大学同窓会「蒼天会」 交流会 2025

6月13日、5年ぶりとなる「北海道情報大学の卒業生が年に一度、野幌に集う会」“蒼天会”交流会が開催されました。卒業生・在学生・教職員など約60名が参加し、豪華な食事や飲み物を囲みながら、懐かしい思い出話や近況報告に花を咲かせました。



新任教員の

ご紹介

NEW TEACHERS
今年度は2名の教員が新たに着任しました。

経営情報学部 先端経営学科

さかた けいじ

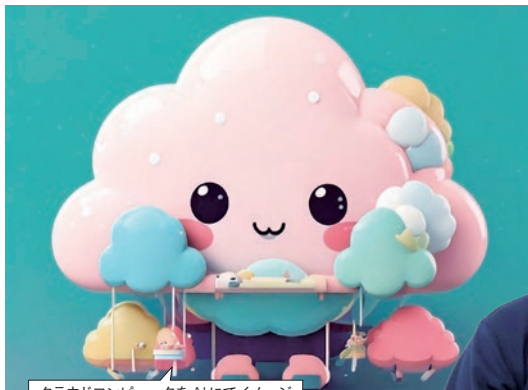
講師 坂田 圭司

研究分野 情報システム学概論
ネットワークとセキュリティ

昨年まで株式会社エスシーシーでSEとして、要件定義から設計、テストまで全工程を経験しました。客先常駐という形態での勤務が長かったため、開発側だけでなく利用者側の視点も活かし、現場経験に基づくアドバイスで学生の実践力を育てたいと思います。

音楽が好きで、学生時代はバンド活動やストリートでの演奏もしていました。講義の準備や研究など忙しい日々ですが、休日には家で音楽を聴いたり、お笑い番組を観てのんびり過ごす時間も好きです。

最近はAIの分野に興味を持ち、新しい発見を楽しんでいます。画像生成だけでなく、作業の自動化やデータ分析、プログラミングや動画生成、文章の校正、またさまざまな分野の職種への応用などAIにできることが年々増えている認識です。気になることがあればまず調べてみるのが性分で、好奇心が原動力です。学生のみなさんにも、答えを待つのではなく、自分で考え、動く力をつけてほしいと思っています。一緒に学びながら成長していければうれしいです。



クラウドコンピュータをAIにてイメージ



SAKATA Keiji

経営情報学部 システム情報学科

しのへ さとみ

講師 四戸 聡美

研究分野 英語教育、第二言語習得論、
応用言語学

第二言語習得の個人差要因をテーマに研究をしています。具体的には、英語学習者のコミュニケーションを取ろうとする意欲、言語不安、過去の学習経験、学習目標などを調べることで、個に応じた効果的な英語学習の実現を目指しています。



節目毎に作っているデコレーションケーキ

料理が趣味です。大学生で自炊を始めたことをきっかけに、基礎からじっくり学びたいと思い、料理教室に通いました。当時の自分にとっては新たな挑戦でしたが、学んでいくうちに料理がとても楽しくなり、最終的に料理の講師の資格も取得しました。現在も日々楽しみながら料理をこなせているように思います。

もう一つの趣味は、ミシンを使った小物づくりです。もともとは、ミシンや裁縫は苦手分野でした。このままではいけない、苦手を克服したいと思い、こちらから基礎から学ぶことにしました。最初は裁縫の本を参考にしましたが、のち

にミシン小物の作り方を紹介している動画があることを知りました。繰り返し再生ができ、映像で確認できるのでイメージがつかみやすく、これが自分には合っているようでした。普段使いできるポーチやバッグ、ファスナーケースなど、自分好みの小物が出来上がる喜びと達成感を味わえるようになりました。今では、休日に時間がある際は楽しく作品を制作しています。

何事も挑戦してみても初めて、その楽しさや奥深さを知ることが出来ると実感しました。

SHINOHE Satomi

学校法人 電子開発学園 令和6年度決算の概要

令和6年度決算が理事会で承認されましたので、その概要についてお知らせいたします。

学校法人会計の計算書類は、資金繰りの状態を示す「資金収支計算書」、経営状態を示す「事業活動収支計算書」、財政状態を示す「貸借対照表」により表示し、私立学校法および学校法人会計基準に基づき作成したものです。

1. 資金収支計算書

令和6年度の収支状況を資金収支計算書により資金の流れを予算と決算で比較します。

(1) 収入の部

学生生徒等納付金収入で3百万円増加、手数料収入で7百万円減少、寄付金収入で1百万円増加、補助金収入で14百万円増加、付随事業・収益事業収入で22百万円減少、受取利息・配当金収入で3百万円増加、雑収入で11百万円増加、学費前受金収入で38百万円増加、その他の収入で14百万円減少し、収入の部合計は118億42百万円となりました。

(2) 支出の部

人件費で4百万円減少、教育研究経費及び管理経費で69百万円減少、設備関係支出で19百万円減少、資産運用支出で50百万円減少、その他の支出で4百万円増加しました。

翌年度繰越支払資金は58億35百万円で1億5百万円増加し、支出の部合計は118億42百万円となりました。

2. 事業活動収支計算書

令和6年度の事業活動状況を事業活動収支計算書により「教育活動収支」、「教育活動外収支」、「特別収支」の3つの事業活動に区分し、それぞれの収支状況を予算と決算で比較します。

(教育活動収支)

(1) 収入の部 学生生徒等納付金で3百万円増加、手数料で7百万円減少、寄付金で1百万円増加、経常費等補助金で14百万円増加、付随事業収入で22百万円減少し、収入合計は51億7百万円で、1百万円減少となりました。

(2) 支出の部 人件費で1百万円増加、教育研究経費及び管理経費で74百万円減少、徴収不能額等で2百万円増加し、支出合計は46億円で、71百万円減少となりました。「教育活動収支差額」は5億7百万円で、70百万円増加となりました。

(教育活動外収支)

(1) 収入の部 教育活動外収入計は、受取利息・配当金の1億2百万円で3百万円増加となりました。

(2) 支出の部 教育活動外支出計は、借入金等利息の4百万円の予算額となりました。「教育活動外収支差額」は98百万円で、3百万円増加となりました。「経常収支差額」は6億6百万円で、72百万円増加となりました。

(特別収支)

(1) 収入の部 現物寄付等が1百万円減少し、特別収入計は1億9百万円で、1百万円減少となりました。

(2) 支出の部 資産処分差額が2百万円増加し、特別支出計は11百万円で、2百万円増加となりました。「特別収支差額」は98百万円で、2百万円減少となりました。

「基本金組入前当年度収支差額」は7億4百万円で70百万円増加となりました。「基本金組入額合計」は6億43百万円で1億33百万円増加となりました。

「当年度収支差額」は61百万円で2億3百万円増加となりました。「翌年度繰越収支差額」は17億94百万円で2億3百万円増加となりました。

3. 貸借対照表

令和6年度の財政状態を貸借対照表により本年度末と前年度末で比較します。

(1) 資産の部

合計で184億13百万円と前年度末対比で6億91百万円増加しました。「固定資産」は主に建物が大学の空調更新工事等で2億14百万円増加、減価償却額で1億96百万円減少しました。

構築物は大学の警備室電源工事等で2百万円増加、減価償却額で9百万円減少しました。教育研究用機器備品は大学の新入生用ノートPC、実習室用機器等、専門学校の実習室用PC等備品で1億68百万円増加、大学及び専門学校のパソコン等の除却で80百万円減少、減価償却額で1億28百万円減少しました。管理用機器備品はeDCタワー ITV設備更新等で18百万円増加、減価償却額で7百万円減少しました。図書は書籍等で5百万円増加、除却で7百万円減少しました。第2号基本金引当特定資産は3億円増加、退職給与引当特定資産は35百万円増加しました。有価証券は新規購入により3億円増加しました。これにより固定資産合計123億7百万円で11億67百万円増加となりました。「流動資産」は61億5百万円で4億76百万円減少となりました。主に現金預金が6億15百万円減少、未収入金が1億34百万円増加となりました。

(2) 負債の部

合計で21億53百万円と前年度末対比で13百万円減少しました。「固定負債」はeDCタワー等の長期借入金で42百万円減少、退職給与引当金が35百万円増加、長期未払金が8百万円減少し、合計14百万円減少となりました。

「流動負債」は未払金が1億63百万円増加、学費前受金が86百万円減少し、合計1億71百万円増加となりました。

(3) 純資産の部

合計で162億59百万円と前年度末対比で7億4百万円増加しました。「基本金」は144億66百万円で固定資産のうち継続的に保持すると判断されるものの額を示す第1号基本金の組入額が3億43百万円増加、将来取得する固定資産の取得に充てる資産の額である第2号基本金は組入により3億円増加しました。

1. 資金収支計算書 令和6年4月1日から令和7年3月31日まで

収入の部 (単位:円)			
科目	予算	決算	差異
学生生徒等納付金収入	3,991,532,000	3,994,967,063	△3,435,063
手数料収入	45,867,000	38,471,175	7,395,825
寄付金収入	4,024,000	5,027,000	△1,003,000
補助金収入	693,770,000	707,574,723	△13,804,723
国庫補助金収入	568,525,000	569,918,100	△1,393,100
地方公共団体補助金収入	125,245,000	137,656,623	△12,411,623
資産売却収入	200,000,000	200,300,000	△300,000
付随事業・収益事業収入	401,045,000	378,950,872	22,094,128
受取利息・配当金収入	99,869,000	102,384,818	△2,515,818
雑収入	78,199,000	89,137,604	△10,938,604
借入金等収入	0	0	0
前受金収入	903,207,000	940,984,434	△37,777,434
その他の収入	224,483,000	210,522,384	13,960,616
資金収入調整勘定	△1,126,121,000	△1,275,471,258	149,350,258
前年度繰越支払資金	6,449,102,000	6,449,101,398	602
収入の部合計	11,964,977,000	11,841,950,213	123,026,787

支出の部 (単位:円)			
科目	予算	決算	差異
人件費支出	1,977,329,000	1,973,581,799	3,747,201
教育研究経費支出	1,640,470,000	1,602,304,663	38,165,337
管理経費支出	618,113,000	586,951,908	31,161,092
借入金等利息支出	4,220,000	4,218,275	1,725
借入金等返済支出	41,661,000	41,660,000	1,000
施設関係支出	215,272,000	215,270,000	2,000
設備関係支出	211,725,000	192,742,450	18,982,550
資産運用支出	1,384,933,000	1,335,286,698	49,646,302
その他の支出	656,518,000	660,703,806	△4,185,806
資金支出調整勘定	△515,287,000	△605,330,185	90,043,185
翌年度繰越支払資金	5,730,023,000	5,834,560,799	△104,537,799
支出の部合計	11,964,977,000	11,841,950,213	123,026,787

活動区分資金収支計算書 令和6年4月1日から令和7年3月31日まで

収入 (単位:円)		
科目	金額	
学生生徒等納付金収入	3,994,967,063	
手数料収入	38,471,175	
特別寄付金収入	3,905,000	
一般寄付金収入	891,000	
経常費等補助金収入	601,270,723	
付随事業収入	378,950,872	
雑収入	88,507,534	
教育活動資金収入計	5,106,963,367	
人件費支出	1,973,581,799	
教育研究経費支出	1,602,304,663	
管理経費支出	583,112,852	
教育活動資金支出計	4,158,999,314	
差引	947,964,053	
調整勘定等	△13,834,283	
教育活動資金収支差額	934,129,770	
施設整備等活動による資金収支 (単位:円)		
科目	金額	
施設設備寄付金収入	231,000	
施設設備補助金収入	106,304,000	
施設設備売却収入	300,000	
施設整備等活動資金収入計	106,835,000	
施設関係支出	215,270,000	
設備関係支出	192,742,450	
第2号基本金引当特定資産繰入支出	300,000,000	
施設整備等活動資金支出計	708,012,450	
差引	△601,177,450	
調整勘定等	△79,124,912	
施設整備等活動資金収支差額	△680,302,362	
小計(教育活動資金収支差額+施設整備等活動資金収支差額)	253,827,408	

その他の活動による資金収支 (単位:円)		
科目	金額	
有価証券売却収入	200,000,000	
その他の収入	129,811,902	
小計	329,811,902	
受取利息・配当金収入	102,384,818	
過年度修正収入	630,070	
その他の活動資金収入計	432,826,790	
借入金等返済支出	41,660,000	
有価証券購入支出	500,000,000	
退職給与引当特定資産繰入支出	35,286,698	
長期預金繰入支出	500,000,000	
その他の支出	214,062,830	
小計	1,291,009,528	
借入金等利息支出	4,218,275	
過年度修正支出	3,839,056	
その他の活動資金支出計	1,299,066,859	
差引	△866,240,069	
調整勘定等	△2,127,938	
その他の活動資金収支差額	△868,368,007	
支払資金の増減額(小計+その他の活動資金収支差額)	△614,540,599	
前年度繰越支払資金	6,449,101,398	
翌年度繰越支払資金	5,834,560,799	

2. 事業活動収支計算書 令和6年4月1日から令和7年3月31日まで

(単位:円)

科目		予算	決算	差異
教育活動収入の部	学生生徒等納付金	3,991,532,000	3,994,967,063	△3,435,063
	手数料	45,867,000	38,471,175	7,395,825
	寄付金	3,793,000	4,796,000	△1,003,000
	経常費等補助金	587,466,000	601,270,723	△13,804,723
	国庫補助金	462,221,000	463,614,100	△1,393,100
	地方公共団体補助金	125,245,000	137,656,623	△12,411,623
	付随事業収入	401,045,000	378,950,872	22,094,128
	雑収入	78,933,000	88,846,557	△9,913,557
	教育活動収入計	5,108,636,000	5,107,302,390	1,333,610
	事業活動支出の部	人件費	2,008,549,000	2,009,207,520
教育研究経費		1,967,802,000	1,929,041,663	38,760,337
管理経費		663,151,000	628,231,488	34,919,512
徴収不能額等		31,481,000	33,400,690	△1,919,690
教育活動支出計		4,670,983,000	4,599,881,361	71,101,639
教育活動収支差額	437,653,000	507,421,029	△69,768,029	

(参考)

(単位:円)

事業活動収入計	5,318,380,000	5,318,941,113	△561,113
事業活動支出計	4,684,948,000	4,615,385,715	69,562,285

(単位:円)

科目		予算	決算	差異
教育活動外収支	収入の部			
	受取利息・配当金	99,869,000	102,384,818	△2,515,818
	その他の教育活動外収入	0	0	0
	教育活動外収入計	99,869,000	102,384,818	△2,515,818
	支出の部			
借入金等利息	4,220,000	4,218,275	1,725	
その他の教育活動外支出	0	0	0	
教育活動外支出計	4,220,000	4,218,275	1,725	
教育活動外収支差額	95,649,000	98,166,543	△2,517,543	
経常収支差額	533,302,000	605,587,572	△72,285,572	
特別収支	収入の部			
	資産売却差額	0	185,805	△185,805
	その他の特別収入	109,875,000	109,068,100	806,900
	特別収入計	109,875,000	109,253,905	621,095
	支出の部			
	資産処分差額	5,800,000	7,341,906	△1,541,906
	その他の特別支出	3,945,000	3,944,173	827
	特別支出計	9,745,000	11,286,079	△1,541,079
	特別収支差額	100,130,000	97,967,826	2,162,174
	基本金組入前当年度収支差額	633,432,000	703,555,398	△70,123,398
基本金組入額合計	△775,672,000	△642,942,610	△132,729,390	
当年度収支差額	△142,240,000	60,612,788	△202,852,788	
前年度繰越収支差額	1,733,043,000	1,733,043,411	△411	
翌年度繰越収支差額	1,590,803,000	1,793,656,199	△202,853,199	

3. 貸借対照表 令和7年3月31日

資産の部

(単位:円)

科目	本年度末	前年度末	増減
固定資産	12,307,478,649	11,140,270,470	1,167,208,179
有形固定資産	6,804,616,109	6,744,091,980	60,524,129
土地	1,725,516,149	1,725,516,149	0
建物	3,988,205,017	3,970,540,013	17,665,004
構築物	93,103,201	100,006,433	△6,903,232
教育研究用機器備品	478,915,356	439,772,093	39,143,263
管理用機器備品	50,910,114	39,597,834	11,312,280
図書	461,986,881	463,444,188	△1,457,307
車両	5,979,391	5,215,270	764,121
特定資産	1,385,237,732	1,049,951,034	335,286,698
第2号基本金引当特定資産	1,000,000,000	700,000,000	300,000,000
退職給与引当特定資産	385,237,732	349,951,034	35,286,698
その他の固定資産	4,117,624,808	3,346,227,456	771,397,352
ソフトウェア	88,407,494	118,293,943	△29,886,449
有価証券	3,000,000,000	2,700,000,000	300,000,000
長期預金	1,000,000,000	500,000,000	500,000,000
その他の固定資産	29,217,314	27,933,513	1,283,801
流動資産	6,105,044,019	6,581,392,177	△476,348,158
現金預金	5,834,560,799	6,449,101,398	△614,540,599
未収入金	220,431,761	86,190,152	134,241,609
その他の流動資産	50,051,459	46,100,627	3,950,832
資産の部合計	18,412,522,668	17,721,662,647	690,860,021

負債の部

(単位:円)

科目	本年度末	前年度末	増減
固定負債	551,923,887	565,871,030	△13,947,143
長期借入金	166,640,000	208,300,000	△41,660,000
退職給与引当金	385,271,752	349,985,054	35,286,698
長期未払金	12,135	7,585,976	△7,573,841
流動負債	1,601,360,035	1,600,108,269	1,251,766
短期借入金	41,660,000	41,660,000	0
未払金	597,462,754	434,721,806	162,740,948
前受金	940,984,434	1,026,771,477	△85,787,043
預り金	21,252,847	96,954,986	△75,702,139
負債の部合計	2,153,283,922	2,165,979,299	△12,695,377

純資産の部

(単位:円)

科目	本年度末	前年度末	増減
基本金	14,465,582,547	13,822,639,937	642,942,610
第1号基本金	13,162,582,547	12,819,639,937	342,942,610
第2号基本金	1,000,000,000	700,000,000	300,000,000
第4号基本金	303,000,000	303,000,000	0
繰越収支差額	1,793,656,199	1,733,043,411	60,612,788
翌年度繰越収支差額	1,793,656,199	1,733,043,411	60,612,788
純資産の部合計	16,259,238,746	15,555,683,348	703,555,398
負債及び純資産の部合計	18,412,522,668	17,721,662,647	690,860,021

北海道情報大学教育研究振興募金のお願い

本学では、グローバル人材育成活動、学生支援、教育研究支援、地域連携活動、教育施設・設備整備を遂行する資金確保を目的として「北海道情報大学教育研究振興募金」の募集を行っております。本募金の趣旨にご賛同いただける場合は、ご支援ご協力をお願いいたします。

北海道情報大学教育研究振興募金

検索



江別市ふるさと納税を活用した市内高等学校及び大学の支援について

令和4年7月27日より、江別市ふるさと納税の寄附先メニューにて「北海道情報大学」を選択して寄附ができるようになりました。納められた寄附金額の一部は、本学の教育環境の充実のために活用されています。

江別市ふるさと納税 情報大

検索



09

2025

19日(金) 後期 授業開始

10

2025

11日(土)~12日(日) 蒼天祭

12

2025

29日(月)~ 年末年始休業期間

01

2026

~4日(日) 年末年始休業期間

24日(土)~ 春季休業期間

03

2026

18日(水) 学位記授与式

お し ら せ

「ななかまど」バックナンバーは
大学Webサイトでご覧いただけます。

検索



情報大の最新情報は公式SNSで!
YouTube / Instagram / X / Facebook

検索



毎年6月に開催される体育祭。本学では学生実行委員会の学生達が指揮をとり開催しています。そして学生とともに年々身体の衰えを感じつつ教職員チームも奮闘しています。熱い戦いのあとは、体育祭恒例のバーベキュー!おいしい肉をたくさん食べて、互いの健闘を称えあいました。

10月には大学祭も開催されます。今年も様々な出店や本学の特色あふれる展示、毎年恒例「蒼天祭大花火」など魅力的なプログラムがたくさんです。ぜひ足を運んでみてください!



大学広報プロジェクトメンバー

あんばいたかし おおやま やすなり おだしま けいた
 安倍 隆 / 大山 康成 / 小田島 敬太
 こんどう たつひと さとう まみこ なかみち だいき
 近藤 達人 / 佐藤 真美子 / 中道 大樹
 にたとり かつま ひきた みずき
 似鳥 克馬 / 疋田 瑞季



北海道情報大学

〒069-8585 北海道江別市西野幌 59-2
TEL: 011-385-4411 (代表)